

## 薬用作物生産の現状

### ◆薬用作物の産地と流通

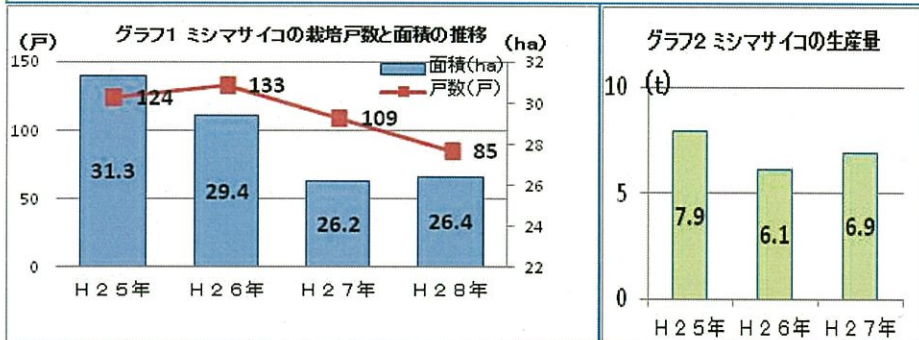
H27年度 主要3品目の栽培状況

品目	戸数(戸)	面積(ha)	生産量(t)	ヒューマンライフ土佐取扱率(%)	主産地
① サンショウ	206	59.6	27.1	100	越知町、大豊町
② ミシマサイコ	109	26.2	6.9	97	越知町、大月町等
③ ダイダイ	93	26.2	7.2	100	越知町、佐川町

○栽培農家と漢方薬メーカーとの契約栽培  
 ・県内生産量の**99.5%**が「ヒューマンライフ土佐」へ出荷  
**「ヒューマンライフ土佐」=県内唯一の薬用作物の集出荷場**

### ▶ミシマサイコ生産状況

○栽培戸数は減少、面積及び生産量はわずかに増加(グラフ1, 2)  
 ○10a当りの収量が低い。30kg/10a以上の農家割合28%(グラフ3)



### ◆ヒューマンライフ土佐の施設整備状況

○ダイダイ等の乾燥調整施設を整備  
 (H28年度こうち農業確立総合支援事業 H28年10月27日落成)

### ◆有望な薬用作物の探索

○牧野植物園との連携による探索  
 ・「薬用植物栽培関係機関連絡会」による情報共有  
 ・シャクヤク等の栽培適応実証試験の実施、試験栽培支援  
 ・ムラサキ生産推進協議会(土佐清水市)への支援

## 生産者と漢方薬メーカーとの契約栽培

### 戦略のポイント

#### ◆ミシマサイコ産地の維持・拡大

- 安定生産技術の普及
  - ・収量30kg/10a以上の生産者の割合アップ  
15% (H26) ⇒ 目標50% (H31)
- 栽培面積の維持・拡大
  - ・栽培面積 26.4ha (H28) ⇒ 目標 30ha (H31)

#### ◆ヒューマンライフ土佐を核とした安定生産出荷

- サンショウ、ダイダイ等の生産量の維持・拡大
- 生産工程管理による品質向上

#### ◆有望な薬用作物の探索

- 栽培適応現地実証試験の実施

#### ◎収量アップ

ミシマサイコ目標収量  
30kg/10a以上  
⇒農家の収益アップ

#### ◎栽培面積の維持・拡大

～産地の維持・拡大～

#### ◎生産者組織の強化

- ・漢方薬メーカーとの連携強化
- ・需要に応じた生産計画策定・実行

隘路

### 指導上の課題

営農指導員の様な生産者のまとめ役がない!

#### ○ヒューマンライフ土佐役員による指導の限界

- ・役員によるボランティア的な個別指導には限界

#### ○普及指導員による指導の限界

- ・契約栽培のため情報収集に制約がある
- ・薬用作物の栽培指導経験が不足
- ・は種から生育初期(2~4月)のきめ細かな個別指導が困難
- ・現地検討会や栽培講習会などの集団指導の実施が困難

#### ○ミシマサイコ2年生品種の技術確立が急務



は種:2月~3月

### 対策

#### ★薬用作物専門指導員の配置(1名)★

○配置(委託)先:ヒューマンライフ土佐

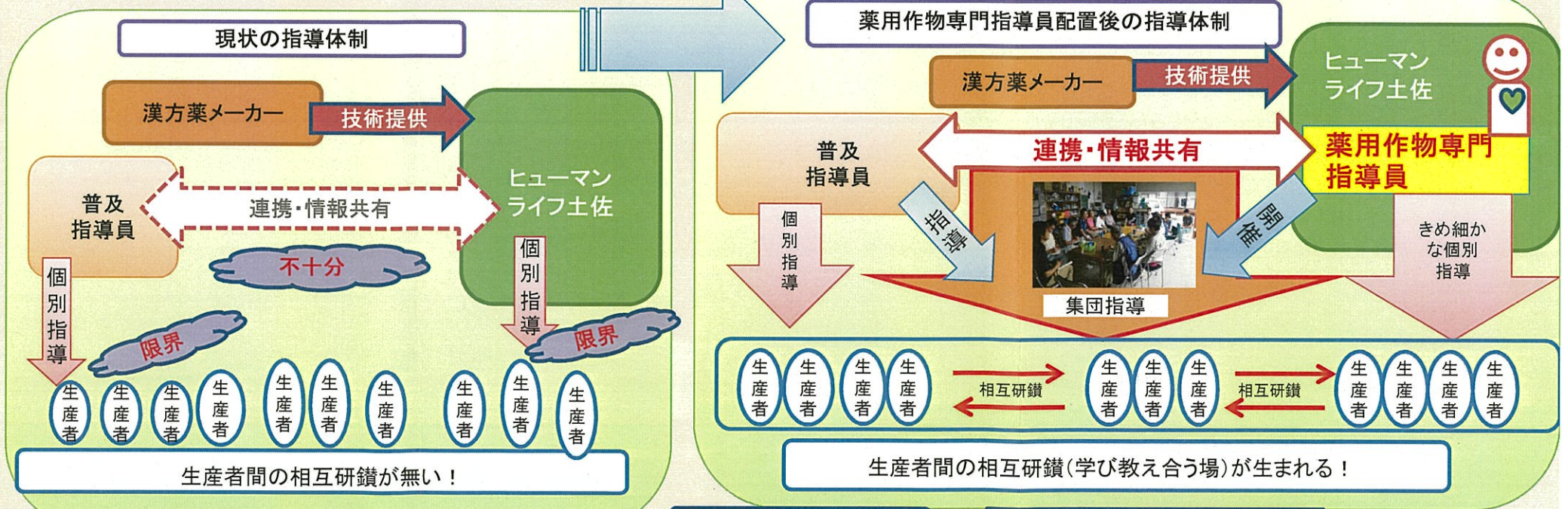
○役割(委託内容)

- 普及指導員と連携した**県域での指導活動の実施**
  - ・現地検討会:県内5ヶ所(本山町、いの町、越知町、四万十町、大月町)年間4回
  - ・栽培講習会:県内5ヶ所、年間2回
  - ・個別巡回指導:対象農家戸数85戸、毎月1回以上個別訪問
- 実証ほの設置・調査への協力
  - ・実証ほ:2年生品種の栽培実証 3ヶ所(越知町、本山町、宿毛市)
- 普及指導員、市町村、生産者、ヒューマンライフ土佐、メーカーとの連携
  - ・市町村連絡協議会等への参加:越知町 年間12回
  - ・普及指導員薬用作物担当者会への参加:年間3回
  - ・漢方薬メーカーとの現地巡回:越知町など年間9回

### JA営農指導員のイメージ



総指導活動時間  
1,536時間/年



### 期待される効果

- ①集団指導(現地検討会や栽培講習会等)の実施で指導効果・効率が向上
- ②は種から生育初期(2~4月)にきめ細かな個別巡回指導が実現
- ③指導機会の増加により普及指導員の指導力が加速度的に向上

～栽培指導力の強化による薬用作物の安定生産技術の普及促進～

・ミシマサイコ収量30kg/10a以上の生産者数の割合が**50%以上(H31)** ・2年生品種の栽培技術の確立